

2025 年度 法隆寺国際高等学校「創生の時間」結果報告

アンケート対象者：【高校】普通科・総合英語科第 2 学年生徒・創生担当教員（学級副担任）

アンケート実施期間：1 年間の授業終了後

1. 総合的な結果

生徒は情報リテラシーや論理的思考力、課題設定力といった探究に必要な基礎的能力について、概ね肯定的に自己評価しており、特に「問いを立て、根拠に基づいて考える」という探究の基本的なプロセスへの理解が進んだことがうかがえます。一方で、根拠の示し方や説明の論理性については十分とは言えないとの回答も一定数見られ、課題も明確になりました。教員からは、事前指導を通じて課題設定やデータの扱い、論理展開が改善されたとの評価が多く、生徒の成長を実感する声が寄せられています。総じて、本探究活動は生徒にとって学びの意義が大きく、今後の学習や将来の課題解決に活かせる経験となったと評価できます。

2. 【高校】生徒の結果

(1) 対象者数：274 名

(2) 回答者数：180 名（回答率 65.7%）

(3) アンケート項目

① 4 月からの探究学習で、自分が意識して取り組んだ探究の方法をすべて選んでください。

（複数回答可）【選択】

〈選択肢〉

- ・「タテ」と「ヨコ」で考える（先行研究×現代の課題）
- ・「数字・ファクト・ロジック」で考える（データ→根拠→説明）
- ・「本・人・旅」と出会う（他者の考え方に触れる）
- ・「メモの取り方」（他者の考え方を自分事にする）
- ・「本の読み方」（主観と客観の切り替え）
- ・どの探究の方法にも取り組まなかった

② 1 で選んだ方法の中で、今回の探究活動において「役に立った」「自分たちの武器になった」と思う方法を選んでください。（複数回答可）【選択】

③ 今回の探究活動を通じて、以下の能力はどの程度身についたと思いますか。【選択】

〈選択肢〉

- ・情報リテラシー（情報を収集・整理する力）
- ・論理的思考力（筋道を立てて考える力）
- ・客観的根拠に基づく説明力（データを基に主張する力）
- ・自分の意見（主張）を根拠（データ・事例）と結びつけて説明する力
- ・プレゼンテーション能力

④ 自分たちの発表内容について、以下の 3 点はどの程度できたと思いますか。【選択】

- ・自分事・現代の課題と結びつけて「課題設定」できた
- ・本・人・現地・データなどの「根拠」に基づいて説明できた（出典や対象、人数等を明確にできた）
- ・高校生なりの「論理」で解決策・提案を組み立てられた

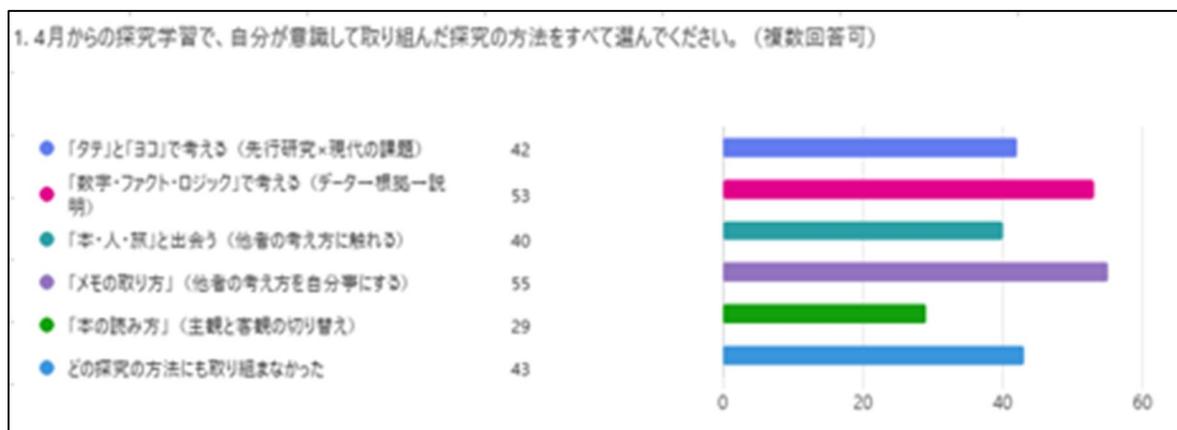
- ⑤ グループで立てた「問い（仮説）」に対して、最終的に納得のいく答え（検証結果）を出すことができましたか。【選択】
- ⑥ あなたが所属したグループは 12 月 8 日の学年発表会でクラス代表として登壇・発表を行いましたか。【選択】
- ⑦ あなたが所属したグループは、11 月の事前指導を受けて、どのような改善・修正をしましたか。（複数選択可）【選択】
- ⑧ 学年発表会で登壇したグループの発表を見て、自分たちのグループと比べて「優れている（ここが違う）」「参考になった」と感じた点はありましたか。（複数選択可）【選択】
- ⑨ 今回学んだ「探究の方法（問いを立てて検証するプロセス）」は、自分自身のこれからの勉強や、将来の課題解決に役立つと思いますか。【選択】
- ⑩ 他のグループの発表や講師（阪南大学の先生）の講評を聞いて、今回の探究活動でこうしておけばよかったと感じた点や、今後に活かしたい点はありますか。【自由記述】
- ⑪ 探究活動全体を通しての感想や、講師（阪南大学の先生）に聞いてみたいことがあれば自由に書いてください。【自由記述】

(4) アンケート結果詳細

①探究学習で意識して取り組んだ方法について

- 「メモの取り方」（他者の考え方を自分事にする）を選択した生徒が最も多く、全体として探究の出発点となる思考方法が広く共有されていることがうかがえます。
- 次いで、「数字・ファクト・ロジックで考える」「タテとヨコで考える」など、情報を受け取り、整理する段階の方法が多く選択されています。
- 一方で、「どの探究の方法にも取り組まなかった」と回答した生徒も一定数存在しており、方法論の理解や実践に個人差が見られます。

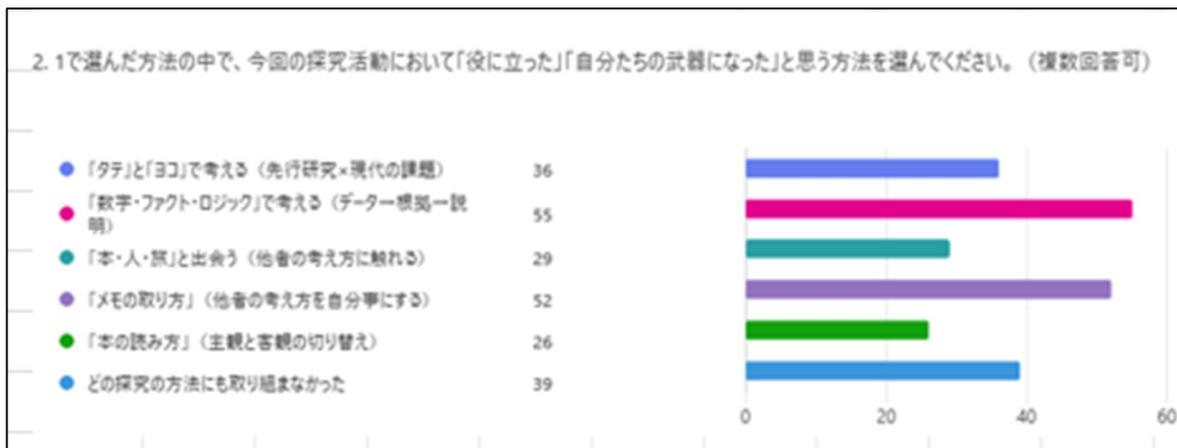
したがって探究活動において、まず「どう情報に向き合うか」という基礎的な姿勢づくりは、一定程度浸透していると評価できます。しかし、方法を「知っている」と「意識的に使う」ことの間には差があり、探究の目的や場面に応じて方法を選択する力については、引き続き丁寧な支援が必要であることが考えられます。



②探究活動の中で「役に立った」「武器になった」と感じた方法について

- ▶ 「数字・ファクト・ロジックで考える」や「メモの取り方」といった、思考を深めるための方法が高く評価されています。
- ▶ 単に取り組んだ方法よりも、「実際に探究を進める中で使えた方法」が選ばれている点が特徴的です。

したがって、探究の方法が、形式的な指導内容にとどまらず、生徒自身の思考を支える「道具」として機能していることが確認できます。一方で、活用が一部の方法に集中していることから、他の方法についても「どの場面で、どのように使うのか」をより具体的に示すことで、探究全体の厚みを増すことが期待されます。



③探究を通じて身についた力について

- 「情報リテラシー能力」や「自分の意見（主張）を根拠（データ・事例）と結びつけて説明する力」については、「そう思う」「とてもそう思う」と回答した生徒が多数を占めています。
- 「論理的思考力（筋道を立てて考える力）」や「プレゼンテーション能力」については、肯定的な回答が多数を占めているものの、他項目と比較すると「そう思わない」「あまりそう思わない」とする回答も一定数見られます。

したがって、探究活動を通して、情報を収集・整理し、自らの考えを一定の根拠とともに表現する力が身についてきていることがうかがえます。また、考えを構造的に整理する力や、相手に分かりやすく伝える表現面については、生徒自身が課題を自覚している様子も見受けられます。

3. 今回の探究活動を通じて、以下の能力はどの程度身についたと思いますか。

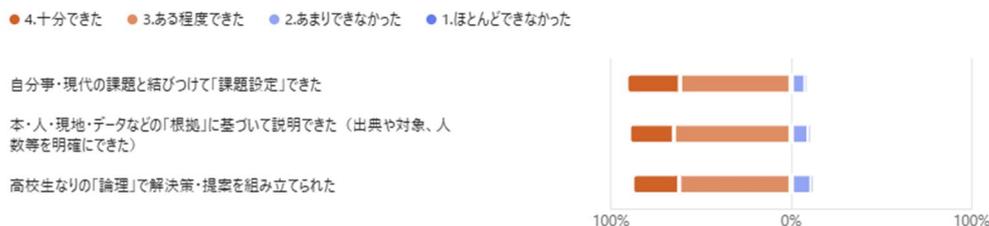


④自分たちの発表内容について

- 課題設定については、「十分にできた」「ある程度できた」と感じている生徒が最も多く、自分事や現代の課題と結びつけてテーマを設定しようとする姿勢が見られます。
- 「根拠に基づく説明」や「論理で解決策・提案」についても「十分にできた」「ある程度できた」の回答が約9割を占めており、当該授業を通して、生徒自身が自身の成長を実感できたことがうかがえます。

現代社会の課題と関連付けた課題設定や、データ・事例を根拠とした説明が一定程度できており、生徒自身が問題意識を持って取り組んでいる様子が見えます。また、高校生なりの視点で解決策や提案を考える姿勢も評価できるといえます。

4. 自分たちの発表内容について、以下の3点はどの程度できたと思いますか。



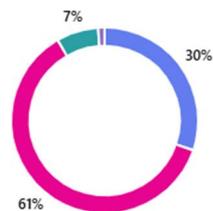
⑤グループで立てた「問い（仮説）」に対する検証結果について

- 「十分に検証できた」は約3割、「ある程度検証できた」が約6割を占めています。

したがって、生徒たち自身が一定の検証を行い、納得のいく答えを導き出そうとしていたことがうかがえます。

5. グループで立てた「問い（仮説）」に対して、最終的に納得のいく答え（検証結果）を出すことができましたか。

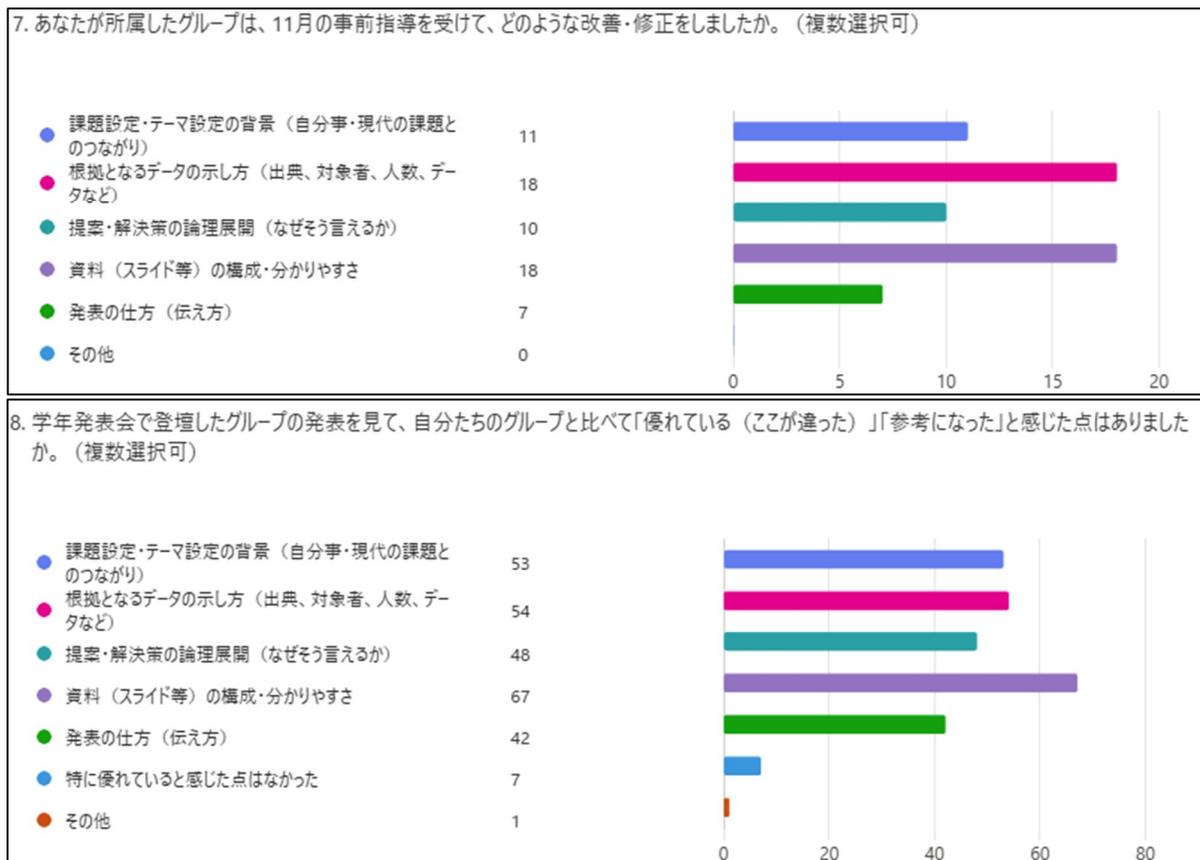
● 十分に検証できた	54
● ある程度検証できた	110
● あまり検証できなかった	13
● 全く検証できなかった	2



⑥事前指導・学年発表会を通した学びについて

- 事前指導後の改善点として、「資料（スライド等）の構成・分かりやすさ」や「根拠となるデータの示し方」を挙げる生徒が多いことがわかります。
- 学年発表会で他グループの発表を見ることで、「資料（スライド等）の構成」「分かりやすさ」「根拠となるデータの示し方」や「課題設定・テーマ設定の背景」に気づいたという回答が見られます。

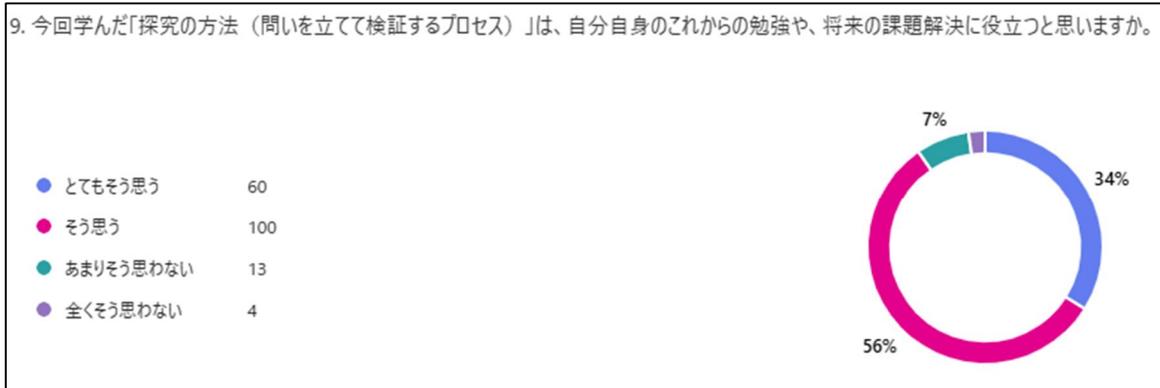
したがって、発表会や相互評価の機会を通して、自分たちの探究を客観的に捉え直す視点が育まれていることがわかります。また、他者の発表を見る経験が、探究の質を高める有効な学習機会となっていることがうかがえます。



⑦探究の方法は今後に役立つと思うか

➤ 「とてもそう思う」「そう思う」と回答した生徒が大多数を占めています。

探究活動が一過性の取り組みではなく、今後の学習や将来の課題解決につながるものとして認識されている点は、非常に重要な成果であることがいえます。



⑧自由記述について

➤ 記述数は多くないものの、「もっと深く調べればよかった」「データの扱い方を工夫したかった」といった振り返りの記述が見られました。

また、以下のように、自身の探究活動を振り返り、課題を言語化できている生徒が一定数存在しており、学びが内省的な段階に入りつつあることがうかがえます。

- ・問題・解決策の論理展開をもう少し詳しくするべきだった。
- ・もっと課題を抽象的にして、そこから疑問を広げていき、どんどん具体的な課題、そして問題解決の方法を考えれば良かったかなと、思います。
- ・発表するだけでなく、自分の伝えたいことの表現も大事だと思った。
- ・もう少し他の人からの意見も取り入れるべきだなと思いました。

3. 【高校】担当教員の結果

(1) 対象者数：7名

(2) 回答者数：6名（回答率 85.7%）

(3) アンケート項目

- ① 【取り組んだプロセス】4月からの探究学習で、ご自身が意識してご指導された探究の方法をすべて選んでください。（複数回答可）【選択】

〈選択肢〉

- ・「タテ」と「ヨコ」で考える（先行研究×現代の課題）
- ・「数字・ファクト・ロジック」で考える（データ→根拠→説明）
- ・「本・人・旅」と出会う（他者の考え方に触れる）
- ・「メモの取り方」（他者の考え方を自分事にする）
- ・「本の読み方」（主観と客観の切り替え）
- ・どの探究の方法にも取り組まなかった

- ② 【役に立ったこと】1で選んだ方法の中で、探究活動のご指導において「役に立った」「自分たちの武器になった」と思う方法を選んでください。（複数回答可）【選択】

- ③ 【スキルの習得】ご担当された生徒さんは、今回の探究活動を通じて、以下の能力がどの程度身についたと思いますか。【選択】

〈選択肢〉

- ・情報リテラシー（情報を収集・整理する力）
- ・論理的思考力（筋道を立てて考える力）
- ・客観的根拠に基づく説明力（データを基に主張する力）
- ・自分の意見（主張）を根拠（データ・事例）と結びつけて説明する力
- ・プレゼンテーション能力

- ④ 【探究の成果（自己評価）】ご担当された生徒さんの発表内容について、以下の3点はどの程度できたと思いますか。（全体的な評価・印象で構いません）【選択】

- ・自分事・現代の課題と結びつけて「課題設定」できた
- ・本・人・現地・データなどの「根拠」に基づいて説明できた
（出典や対象、人数等を明確にできた）
- ・高校生なりの「論理」で解決策・提案を組み立てられた

- ⑤ 【思考の検証】ご担当された生徒さんがグループで立てた「問い（仮説）」に対して、最終的に納得のいく答え（検証結果）を出すことができたと思いますか。（全体的な評価・印象で構いません）【選択】

- ⑥ 【事前指導による改善】ご担当された生徒さん（クラス代表グループ）は、11月の事前指導を受けて、どのような改善・修正をしましたか。（複数回答可）【選択】

- ⑦ 【将来への活用】ご担当された生徒さんが今回学んだ「探究の方法（問いを立てて検証するプロセス）」は、生徒自身のこれからの勉強や、将来の課題解決に役立つと思いますか。

【選択】

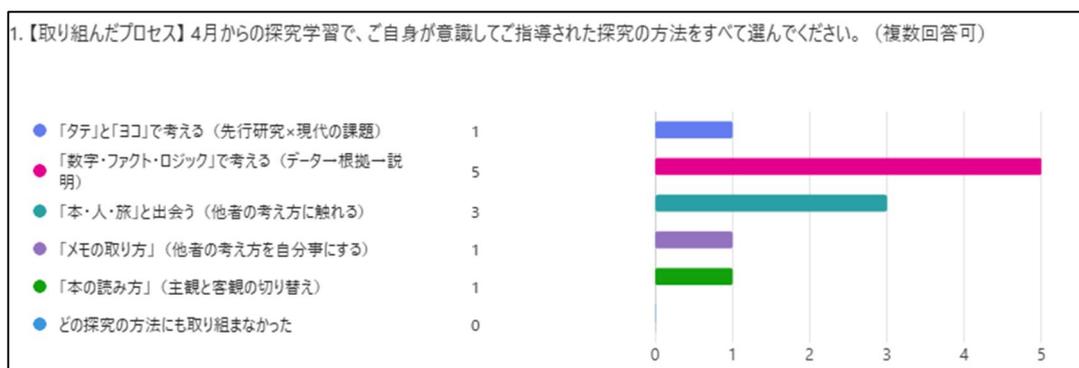
- ⑧他のクラスの発表や講師（祐岡）の講評を聞いて、今回の探究活動のご指導でこうしておけばよかったと感じた点や、今後に活かしたい点はありますか。【自由記述】

- ⑨探究活動全体を通しての感想や、講師（祐岡）に聞いてみたいことがあればご自由にお書きください。【自由記述】

(4) アンケート結果詳細

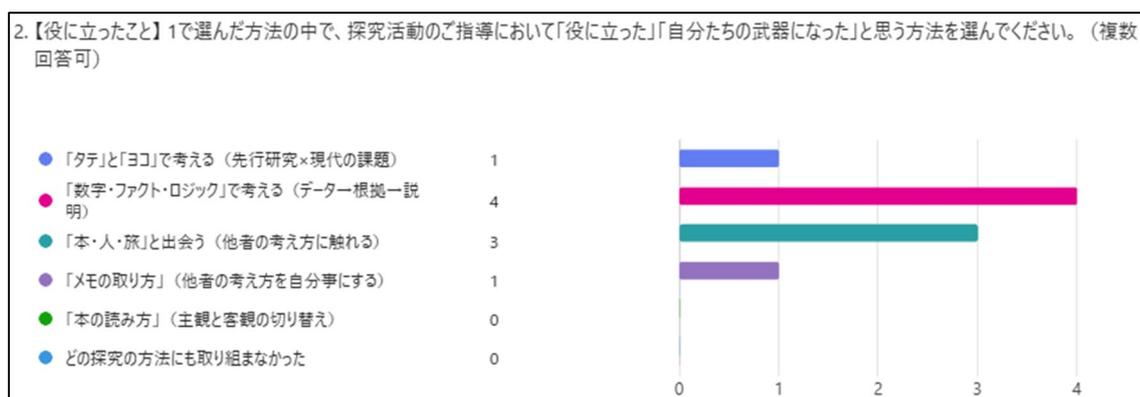
①取り組んだプロセス

- 「数字・ファクト・ロジック」を意識した指導が多く、探究活動の軸として定着しつつあることがうかがえます。
- 「本・人・旅」など、他者や外部との接点を重視する姿勢も一定数見られ、探究の幅を広げる工夫がなされています。
- 一方で、複数の方法を組み合わせて指導している教員も多く、現場で試行錯誤しながら取り組んでいる様子が見受けられます。



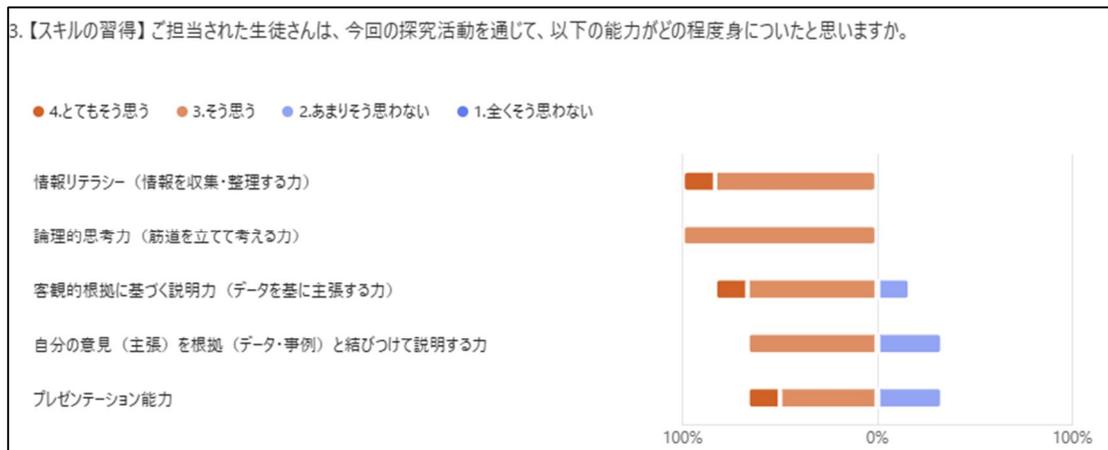
②役に立ったこと

- 「数字・ファクト・ロジック」が、指導上の“武器”として特に有効であったとの認識が共有されています。
- 探究の進め方において、思考の拠り所を明確にできた点が、教員側の手応えにつながっていることがうかがえます。
- 実践を通して、方法論の有効性を実感できたことが今後の指導継続につながると考えられます。



③スキルの修得

- 情報リテラシーや論理的思考力については、「そう思う」「とてもそう思う」が多く、一定の成長が見られます。
- 一方で、「根拠と主張を結びつけて説明する力」や「プレゼンテーション能力」については、評価にばらつきがあり、課題も残ることがうかがえます。



④探究の成果

- 多くの生徒が、現代の課題と結び付けた課題設定ができたと評価しています。
- 根拠となるデータや事例を用いた説明については、「ある程度できた」という回答が5割を占めましたが、「あまりできなかった」という回答も3割程度存在しました。
- 高校生なりの論理で解決策や提案を組み立てた点についても、一定の評価が得られている一方、十分とは言えないとの回答も見られました。

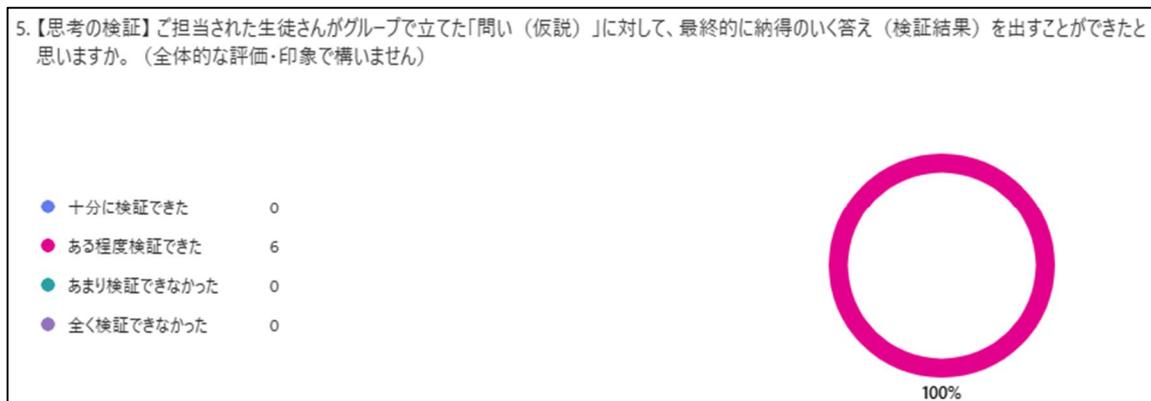
4. 【探究の成果（自己評価）】ご担当された生徒さんの発表内容について、以下の3点はどの程度できたと思いますか。（全体的な評価・印象で構いません）

● 4.十分できた ● 3.ある程度できた ● 2.あまりできなかった ● 1.ほとんどできなかった



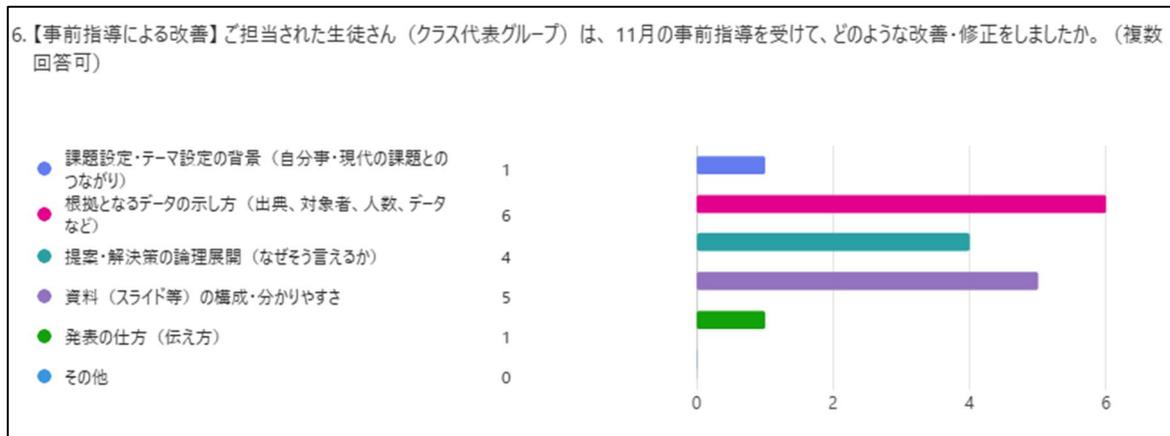
⑤思考の検証

- 「ある程度検証できた」との回答が中心で、探究のプロセス自体は一定程度機能していると考えられます。



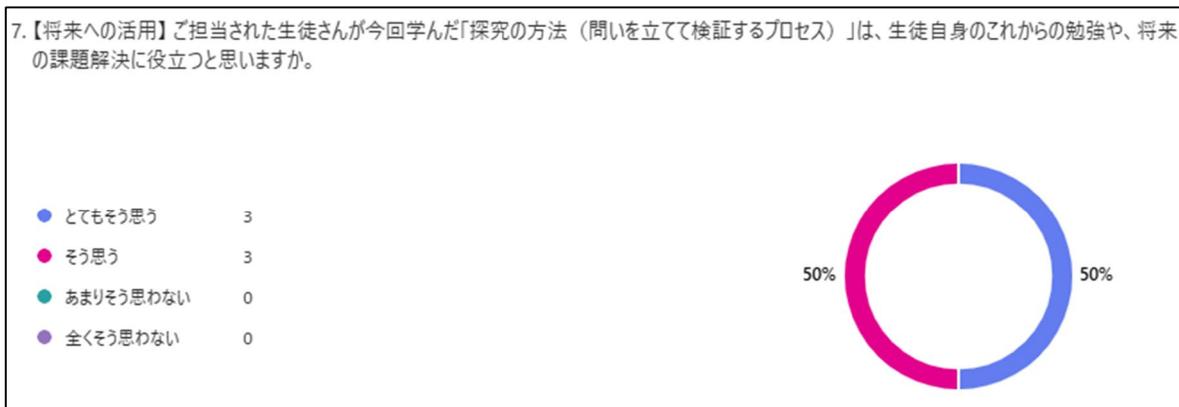
⑥事前指導による改善

- 根拠データの示し方や論理展開の見直しなど、探究の質に直結する部分での改善が多く見られました。
- 事前指導が、生徒の発表内容や構成をブラッシュアップする機会として有効に機能していたことがうかがえます。



⑦将来への活用

- ▶ 「役立つと思う」「とてもそう思う」との回答が 100%となっており、探究活動の意義が教員間で共有されています。
- ▶ 今回の学びが、今後の学習や将来の課題解決につながるという期待感が高いことが見受けられます。



⑧自由記述（振り返り・今後に向けて）

- ▶ 今年は、活動を開始してから、祐岡先生の説明を聞かせもらうことになった。まず、探究学習について良く聞いて、始めて行くべきだと思った。
- ▶ 先生が、最初の問題設定が大切だとおっしゃいましたが、生徒たちの後の活動を見て、そのことを痛感しました。解決できない問題や答えが簡単に出てしまって意味のない課題設定など、指導者がよく考えるべきだと反省しました。
- ▶ 今回は手探りで指導だったため、班決めやテーマ決めの1時間目の入り方に改善点があると感じていました。今回を通して1年間の流れもわかったため、次回はテーマ決めから自クラスで行っていきたいと思いました。
- ▶ 校内アンケートに答えてもらう人数をもっと多くしたらよかった。データの読み取りをもっと多角的に行えるように訓練したい。
- ▶ 7つのグループが活動を進めていくなかで、全体に目を配って指導して行くのは厳しいと感じました。教員1人が担当するグループ（人数）はどれくらいが適切だと思いますか。
- ▶ 探究活動の考え方は科目の授業でも取り入れて行っています。生徒の成長できる機会になるように励んでいきたいと思います。
- ▶ 一生懸命に取り組む生徒と誰かに依存してしまう生徒が出てきてしまう。グループの一員として何か貢献する自覚を促していきたい。また、発表後に自分が果たした役割を、しっかりと振り返る機会があればよかった。今後工夫したい。

※一部、高校教員からいただいているご質問については、別途担当教員から報告書（本学ホームページに掲載）を通じて回答していただく予定です。

以上